

---

Reversal World **俺の俺による俺らしい逆転戦争**

久世 途夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Reversal World 俺の俺による俺らしい逆転戦争

### 【Nコード】

N2354Y

### 【作者名】

久世 途夜

### 【あらすじ】

『真実』を知るまで終わらない。『君は異世界に居るべきなんだよ』。その神様の半場強制的な召喚により、召喚された世界は、想像を覆す世界だった。史上最低の世界とも呼べる世界。しかし、その世界にも終わりが近付きつつあった。どれだけ最低最悪でも終わりにさせて溜まるかよ。秩序も物理法則も何も無い世界、告げられるタイムリミット。世界の終わりは刻一刻と迫る。終わらせない、世界が終わってしまうその前に、俺は自分の正義、勇気、想いを胸に、俺の信ずる道を進む。安心と安全の主人公最強厨二物

語（ 残酷な描写、表現、卑猥な表現、描写が登場します。苦手な方は即座にバックブラウザ）（ 文章が稚拙な為、暇潰しにでも読んで貰えればこれ幸いです）

## 物語主要用語紹介

### レジエンディア

通称『伝説を創る世界』と称される世界。

群雄割拠の戦国乱世の時代であり、皆領土や地位、名誉、或いは覇権を求めて大規模な戦乱から小規模な紛争内戦が巻き起こっている。東方、西方、南方、北方、中央の五大陸から構成され、空中大陸を含めれば六大陸から完全構成されている。

### マテリアワールド 物質世界

地球の事を指す言葉。

物質や法則が完全に支配する事から名付けられた。

年に一度、地球から合計十名の地球人がレジエンディアの召喚させられる。

### 異端者

召喚された者達の通称。

戦争の兵士、或いは唯の奴隷、婚約者として召喚させられる事が多いが、その理由としては地球人は減らしても減らしても減らないからだそうだ。

### 東方大陸

通称『ラグナカルタ』と呼ばれる近作の舞台となる大陸。

大きさはアメリカ合衆国程で、様々な国家から成立している。

### アクトセリア帝国

東方大陸東部を統治する軍事大国。

覇権を狙う一国でもあり、東方大陸完全統一を狙う。

ラディルファイア王国

東方大陸西部に位置する王国。

同じく覇権を狙う一国で、東方だけでなく全大陸統一を目指している。

海や川、樹林地帯が近い為に、様々な産業に恵まれるが、その分魔物の襲来を受け易い。

エルテニア王国

東方大陸北部に位置する王国。

アクトセリア帝国と隣接する砂漠の中に佇む国家。

砂漠の中に存在するが、近隣にオアシスが多数有る為飲料水や食物には困らないが、武装に金属製品を使用する為に、ラディルファイアからの輸入に頼っている部分がある。

アシミネシア王国

覇権主義を掲げ、覇権を狙う一国。

軍事大国でもありながら、身分差別、階級差別、人種差別、貧困差別、奴隷制度が未だに定着している国家の中では強力な分、奥底が深い国家。

大きな湖と大森林の近くに存在しているが、魔物避けの結界を張り巡っている為に、普通では魔物に襲われる事はないと言う。

ケルニス王国

アクトセリア帝国とは現在冷戦中の中央に位置する軍事国家。

北部地方への進出を目指し、物資補充と休憩場所として何処かの国を一国配下に付け様としている。現在は特でない。

諸国家群

北部に存在する、小さな国家群。

この国家群の集まりで成り立つ居場所は色々と存在し、多勢で攻め

落とす際には魔法に注意を心掛けています。通称『術国』と呼ばれる程。

## 魔法

レジェンディアに存在する力。

詠唱スベルにより発動を可能とし、自然界への干渉をする事で、神々を召喚する事も可能とされているが、召喚出来る物は数少ないとされている。

魔法の種類としては

ロツシオ

?炎

アイシユートル

?氷結

ウイアンテ

?疾風

ピアハイデンデード

?大地

ディーネス

?闇

ライツ

?光

ブリッツァル

?稲妻

詠唱スベル

自然界に干渉、精霊、神々へと祈りを捧げる為に存在する言の葉。長ければ長い程、威力は増し、短ければ短い程威力は低い。

アヒリテ  
能力

魔法とは違った、それぞれの剣術や武術、流術で行える行動術式。剣で攻撃する際に、剣に炎を纏わせるのを魔法とするならば、剣による連続攻撃は能力である。  
業II能力と捉えるのが良いかもしれない。

## 魔銃

通称?魔導銃?と呼ばれる軍用兵器。

魔弾と呼ばれる魔力の秘められた弾丸を放つ事以外にも、魔力自体

を含め、そのまま魔法の弾丸、閃光として放つ事も可能。

### 逆転戦争

世界が終わると言う事を逆転し、世界は終わらない、いや、終わらせないとする為の自分自身の戦争。主人公に課せられた事とし、戦争は終わりを知らないとしている。

### 解放軍

帝国の意志に飲み込まれている者達、奴隷達、差別により苦しむ者達に平和を与える為の組織団体。しかしその反面、皆が魔法を当たり前の様に使う為に、被害が大きいのが特徴的。

『民族解放』と『革命』を主義に掲げ、戦い続けている。

### 黒鷲

解放軍の頂点に立つ組織団体。解放軍同様『民族解放』や『革命』が主義だが、実質戦争の表舞台に立ち、戦争の緩和や、鎮圧。紛争も追加するが、魔法使い、戦士にせよ集まるのは上位ばかりで、通常解放軍同様の行動は行わない事が多い。

### 騎士団

各国に必ず配備される治安維持部隊。今で言う自衛隊の様な役割を果たす。騎士になるのは、貴族や元貴族出身、上級庶民、従士で平民がなれると考えると良い。ちなみに騎士団はそれぞれでエンブレムが存在し、今回第一章で登場するのは真紅の十字架である。

### 滅望戦争

数十年前に巻き起こった大戦。世界全土を巻き込む大戦で、土地を衰え、民を疲弊させても終わらず、秋保同様、異端者の活躍で取り締まられたと言う伝説級の戦争。異端者を人は『霸王』と呼んだが、この現在ではそれは空想や御伽噺とされ、埋もれつつある。

覇の力

霸王の持っていた特殊能力だと言う。

秋保に授けられるのはまた違い『覇』でもあるが彼の場合『王』らしい。

『覇』の場合は、霸道を制し、『王』の場合は、王道を制すと言う意味を持つ



## 第一章登場人物紹介

名前：篠崎秋保 シノザキアキホ

年齢：17歳

職業：高校生

部活：帰宅部

好物：甘味

特性：鈍感、朴念仁

本作品の主人公であり、語り部。

黒髪で黒眼、更には黒縁眼鏡と言う純日本人な高校生であり、読書家。

頭は良く、運動神経も並々で、全てが平均的な青年。

元陸上部で、特に特筆すべき点のない、平凡克普通な青年。

正義感が強く、責任感も強い。卑怯で姑息な方法を使っても、それは勝つ為の手段だと言う。

DSで突っ込みを担当する。戦っている内に慣れてしまう自分が怖いと言う。

名前：エレア＝シヨツツバルツ

年齢：15歳

職業：奴隷

魔法：氷結系魔法 アイシユテール

故郷が戦争で壊滅し、奴隷として捕まった少女。

白銀の髪と真紅の瞳を持つ、種族吸血鬼。

氷系統の魔法を使用するも、奴隷の間は腕に枷、魔法殺しが嵌められている為に使えない。

優しく、温厚で、甘えん坊の寂しがり屋。怒ると誰よりも怖かったりする。戦闘時や戦争の場合は冷静沈着であり、状況を漏れなく伝える報告屋とも言える。

名前：ハルト「リースティアート

年齢：17歳

職業：傭兵

魔法：火炎系魔法ロッシオ

傭兵稼業を営む青年。血気盛んで、戦闘狂。

赤髪に赤色の瞳を持つ、妖精種族で背中に羽が付属している。

正々堂々、正面突破を好み、裏からチマチマと攻撃する作戦は好まない。

食事も人一倍食べる為、食費は半分コイツから取られると秋保は良く嘆く。

名前：エルシエ「フリツケニシアイスト

年齢：19歳

職業：帝国騎士団

魔法：疾風系魔法ウィアンテ

アクトセリア帝国騎士団の女性で、悪を許さないと云う正義一本の女性。

妖精種族で、疾風魔法を扱う様は風神とも呼ばれている。

誰よりも騎士団の中では美しいが、秋保曰く「厚化粧」らしい。

人気は高く、気高い。強気で、弱みを絶対に見せない事から「女傑」とも呼ばれている。

名前：ブランツ「シュトレアー

年齢：25歳

職業：帝国騎士団

魔法：大地系魔法ヒアハインテイド

アクトセリア帝国騎士団の男性で、エルシエの先輩。

神様は想像以上に最低でした

俺は高校生である。

誰が何と言おうと、普通の高校生だ。

日常を謳歌する、健全で、逆に普通過ぎて困るって言う位普通な高校生さ。

特筆すべき点も無ければ、目立って悪い点も無い。

強いて上げるならば、その読書量だろうか？

一日三冊を目標として読んでいるのだが、近頃学校の図書室で満足出来なくなつて来ている自分が居て成らない。いやはや、これはそろそろ俺に買いに行けと言う神様のお告げなのか、それとも試練なのか……。

いずれにせよ、俺 篠崎秋保は少しばかり読書量の多い普通の高校生と捉えて貰つて構わない。

何？ 何で突然こんな事を？

まあ待て、順を追つて話す。

読者諸君が疑問を持つのも解るが、少し待ってくれ。

まずは俺が落ち着こう……、大きく深呼吸……、よし。

さて、で、だ。

何で突然俺が普通で有ると言う事を強調しているのか、と。

理由は至つて簡単。

俺は今、普通では無い状況に置かれているから。

人間、普通では無い状況に置かれると、自分が正常で、常識人で、普通の人間なのかを確かめたくなる生き物なのだよ、まあ今日始めて知つたのだが。

ん？ 普通では無い状況って？

どう、形容すべきだろうか……。

ではこれもまた順を追って話す。

まず、俺は寝ようとしていた。

だから、家の鍵は閉めた。

だから、窓も閉めた。

よし、戸締り完了。

さあ、寝よう。とした瞬間に、それが襲来したのだよ。

「襲来って何だか言い方酷いな、訂正してよ」

……まあ、幻聴は無視して。

聞こえた奴、今直ぐ耳鼻科行って来い。

「無視しないで!? 流石に泣くよ?!」

……可笑しいな、俺、マジックマッシュルームでも食べたっけ?

「因みにマジックマッシュルーム」その問題じゃねえよな?」「はい、  
スイマセン」

饒舌野郎が。

一度喋り始めたら止まらない癖に自重しないとか……。

……ふう。

さて唐突ですが、問題です。

俺の目の前には一体何が居るのでしょうか?

不正解。

正解者は耳鼻科へと直行して下さい。

……冗談はさて置き。

現在、俺が居るのは自分の部屋のベッドの上である。

目の前にはシュンとし続ける金髪美少女。

彼女の名前はセスタ。それだけらしい、因みに威張って神様とか言っただから額に中って書いて遣ったらキレられた。

「それは神様だもの、キレるよ」

其処は神様の慈悲深い心と暖かい心で見逃そうよ。

で、脱線脱線！ で、だよ。

彼女の一言目に、俺は驚愕を通り過ぎて、呆然していたのが一番最初の普通確認に至る。

彼女の言い放った言葉は 。

『君にはこれから拒否権無しで異世界へと行って貰います』

だ。

異世界？ ハッ、有る訳無いだろうがよ。

異世界何て幻想空想理想妄想ライトノベルの世界観。現実主義者の俺にとってそれは理想空想妄想ライトノベルの世界観でしか捉えられないんでね。

「有るよ？ 異世界は」

で、無いって言ったから今彼女は絶賛不機嫌だ。

「証拠は？」

尋ねて見る。そうだよ、証拠を聞けば万事解決だよ、まさか世界

持って来る訳無いし。

「これ」

「はい？」

これ？

「この中を見て？」

「中……、どれどれ」

彼女が遣って来た時と同様、彼女と俺の直ぐ隣に直径45センチ程度の穴が開く。

俺は落ちない様に中を覗いた。

「……、あの、さ……、セスタ」

俺は引き攣った笑みのまま、振り向く事無く尋ね掛ける。

「ん？」

「これ、全部がそうだったのか……？」

驚愕驚愕、もう大、大、大喝采級に驚愕だよ。

だって38。

「合計345個、それが今有る異世界の数。まだ作成途中のものも有るけどね」

「さっ!?!」

345個!?! 嘘だろ!?! て、事はまだ数え切れてないのか、俺は。

もう驚いたよ、プラネタリウムが間近に有ると思えば良いけど、プラネタリウムよりリアルで、星が無いから世界一個一個が綺麗に見得る。

この穴欲しいな……。

「まあ、確かにあったな……。  
馬鹿にして悪い」

俺は頭を下げながら、そう告げて置く。

「良いよ良いよ、最初は皆そう言う反応だもの」

しかし流石神様、こう言う場合も笑って許してくれる何て……、  
何て慈悲深。

「でも、その分私に付き合ってね」

じゃねえ!! 理不尽だ!!!! 理不尽な暴力だ!!!

「付き合っつて何をするのさっ?」

そう問い掛ける。

すると神様は笑顔で「君を異世界へと送り届けるのさ。大丈夫、君に能力も授けるし、役目も与えるから」と言って、俺の肩を二度叩いて来る。

「いやいやいやいやいや、そもそも役目って。与えてくれなかったら終わりでしょ、この物語」

え、メタい。悪い、さーせんだな。

「いや、その場合は違つ子探す物」

「理不尽だな、オイ。で？ その異世界ってのは何処なんだ？」

俺は肩を竦めてから、首を傾げた。

そろそろそつちも気になって来る。

どうにも異世界にも種類があるらしいし……。

「君の行く世界は《レジェンディア》。通称『伝説を創る世界』って呼ばれてる第7番目の異世界ね」

「レジェン、ディア……」

厨二って言ったたら悲惨だから、RPGに登場しそつな名前とでも言つて置こつるか。

「で？ 俺の役目は？」

「簡単簡単」

「簡単？」



お、ならヤル気湧いて来たぞ？

「世界改変」

「何処か簡単だコラ、オイ。簡単って意味解って使ってるのか？あ？ 広辞苑で頭殴ってやろうか、頭良くなるかもしれないぞ？オイ」

「其処まで怒らないでよ……、うう、まあ、それで、だよ」

怒るわよ、怒らないはずがないわ。一級フラグビルダーでも怒るよ、絶対。

「それで？」

続きを聞く為に待ってから、首を捻る。

「君、実際あの異世界の居るべき存在なんだよ？」

「……は？」

「君があの世界に居れば、以前の霸王同様の事を行える。そう思っ  
て、私達は貴方を選抜したの」

「霸王……、って、俺の他にもその世界に行った奴が居るのか……  
？」

物好きな奴……、それ程異世界とやらに行きたかったのかね？

「うん、名前は佐治。佐治浩平」

「佐治……」

「今はもう行方不明状態だけどね。で、もう一人が南雲優二」

「え、二人!？」

あれ、一人じゃなかったの？

「二人二人。で、南雲君も行方不明。まあ二人共、私達の目論見通り、世界改変してくれたし、隠居生活でも、ハーレムでも、何遣っても構わないんだけどね」

「投げ遣りだなオイ。せめて探し出して遣れよな……」

「探し出してやりたいのは山々なんだけど、それで他の世界が消滅したら面倒なの」

「ほう……」

確かに面倒なのは嫌だが……、んー、それでもなあ……。

「私だってあの子達が凄いい心配だよ。行方不明って聞かされた時は、口から心臓が飛び出そうだった物。って、もう夜明けね……、じゃあそろそろ移動しましょうかっ!」

「リアルタイムだったのこれ!？」

俺も、多分作者も初耳だよ、オイ!!

「まあ、詳しい話は向こうでねっ」

「ちよ、ま、押すな押すな!」

迫る穴。

「押すなって待て待て待て待て!!!!」

「れっつごーっ!」

結論、ザ、レビテーション。

「ぎゃあああああああああああああああああああああああああああああああああ  
あああああ!!!!!!!!!」

「いええええええええええええええええええええええええええええええええええええ  
えええええ!!!!!!!!!」

落下。

しかも重力落下。

見事なまでに垂直です、はい。

これ、俺、死んだ? パラシュートも何もないよ、これ。

読者諸君、済まない。

俺、最初で死ぬみたいだ。

俺、この物語終わったら結婚するんだ

アディオスッ、って、やっぱり怖いいiiiiiiiiiiiiiiiiiiii  
いい!!!!!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2354y/>

---

Reversal World 俺の俺による俺らしい逆転戦争

2011年11月5日05時09分発行